

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム杜の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成25年9月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対するのバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の子供達が行なう夏休みのラジオ体操の場所に、事業所の庭を提供されている。事業所の畑は、地域の方に教えていただいたり、手伝ってもらいながら、野菜作りをされている。5月に事業所でバザーを行った際には、地域に向けて50~60枚ほどのチラシを配布して参加を呼びかけ、地域の方と一緒に松山大学の吹奏楽の演奏を聞いたり、写真を展示して笑顔で暮らしておられる利用者の様子をみていただいた。

ご家族が玄関の壁に季節ごとに飾り付けてくださっており、調査訪問時には、菊の花やハロウインの飾りになっていた。ご家族には、毎月「杜の里だより」にて行事や取り組みについて報告されており、利用者個々の担当職員からの手書きの手紙を同封されている。

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム杜の里

(ユニット名) こもれび

記入者(管理者)

氏名 佐伯 伸治

評価完了日

平成25年9月28日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を見えやすい所に掲示しているが実践できていないと感じる。利用者の生活の向上のために意識しているが、日々の業務に追われていると感じている。	
			(外部評価) 基本理念に、「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支えます」と掲げておられ、新人職員には、管理者から説明されている。管理者は、今後さらに、「職員が忙しい時こそ、理念に立ち戻って考えられるよう職員と話し合っていきたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のイベントには積極的に参加しており、ホームの行事にも参加していただいているが、日常的な交流は行なえていない。	
			(外部評価) 地域の子ども達が行なう夏休みのラジオ体操の場所に、事業所の庭を提供されている。事業所の畑は、地域の方に教えていただいたり、手伝ってもらいながら、野菜作りをされている。5月に事業所でバザーを行った際には、地域に向けて50～60枚ほどのチラシを配布して参加を呼びかけ、地域の方達と一緒に松山大学の吹奏楽の演奏を聞いたり、写真を展示して笑顔で暮らしておられる利用者の様子をみていただいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 包括支援センターの協力を得て、認知症高齢者についての勉強会を開催したり、近隣の方の相談に対応したり、少しずつではあるが発信できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では評価後の今後の取り組み目標・達成状況を報告する機会も設けている。地域の方々からの提案・意見を多く頂き、サービスに反映出来るよう努めたい。	
			(外部評価) 会議には、民生委員の方やご家族が参加されており、管理者が会議内容を考えて開催されている。会議は、事業所のバザーや年2回の消防訓練と併せて行なわれたり、会議形式の際には、現況報告を行なっておられる。県内に住むご家族に会議案内を出しておられ、現在は決まったご家族1名だけの参加となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいた際に、相談を行ったり、情報を頂いたりする機会はある。	
			(外部評価) 運営推進会議と「杜の里バザー」とを併せて行なった際にも、市の担当者の方が参加してくださり、事業所の取り組みや利用者の様子等を見ていただいた。会議には、流行している感染症についての情報提供がある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の家族様と話し合いながら、利用者に応じて安全確認・予防のためにセンサーマットを使用している。	
			(外部評価) 転倒を繰り返す利用者の方には、センサーマットを使用しているが、職員は気を付けて見守るようにされているが、現状は安定しているようだ。今後さらに、利用者の現状等の把握に努めて、利用者の安全で自由な暮らしに向けた支援に工夫を重ねていかれてほしい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			職員一人一人が利用者への思いやりを持ち、観察・声をかけを促しながら穏やかに過ごせるように努めている。虐待についての勉強会を行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			勉強会を設け、成年後見制度について学びながら個々の必要性を話し合っている。又、情報交換しながら理解し、説明を行いよい関係作りに努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時は契約書に沿って説明・相談を行っている。又、契約以前から契約後も随時ご家族の不安や疑問に関してお話しして頂けるような関係作りに努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			ケアプランの確認を頂く際、来荘いただけのご家族には直接説明し、ご家族からのご意見・要望をうかがっている。なかなか来荘されないご家族にも文面にてケアに対する要望を頂き、サービスに反映出来るよう取組んでいる。	
			(外部評価)	
			ご家族が玄関の壁に季節ごとに飾り付けしてくださっており、調査訪問時には、菊の花やハロウインの飾りになっていた。ご家族には、毎月「杜の里だより」にて行事や取り組みについて報告されており、又、利用者個々の担当職員からの手書きの手紙を同封されている。ご家族来訪時には、利用者の日々の様子を伝えて、ケアや暮らしについての要望を聞くようにされているが、遠方に住むご家族についても今後さらに意見や要望を引き出す取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングでの話し合いではそれぞれ意見し話し合っているが、個人的な意見や提案などは前進せず、途中どまりのことが多く見受けられ反映されていないと感じる。	
			(外部評価) 日々の中で出された職員の意見について、ミーティング時等にすべての職員で話し合うようにされている。職員からの法人への要望や意見については、管理者がその都度伝えるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務体制などは個々の希望の休みを優先して、無理のないようシフトを組み、働きやすい状況を作っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティング時にはみんなで勉強会などの時間をとっている。外部の研修へも予定を立て、全員が年に1回は何らかの研修に参加できるよう努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム同士の交流会・相互評価などに参加し、互いに評価しつつ参考になることも多く意見交換なども積極的にできている。管理者・職員も同業者と多く交流する事により、見えていない部分やサービスの質の向上につながっていきけるのではないかと思う。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前に、利用者様としっかりと面談を行い、不安なく生活の場所が移動できるように努めている。また、これまでの関係者の方にも協力が得られるような連携作りを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス提供前にご家族とゆっくり面談できる時間を持ち、ご家族の不安や、グループホームでどのように生活を送って欲しいかなどのご希望を聞き取れるよう話し合えるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			入居相談時に、グループホーム内だけのサービスにだけでなく、買い物・理髪・通院・リハビリなど必要なサービスが受けられるよう相談し、支援に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			利用者の知恵や生活歴を活かし、それを聞き出しながら持ちつ持たれつの関係ができるよう、職員も意識し、支援に努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			毎月のお手紙で近況報告したり、ご来訪された際にご家族の意見を聞き、実際にそれを取り入れ業務にあたっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			友人や知人など馴染みの方の来訪もあり、一緒に外出へ出かけたりもしている。そのような来訪の少ない方にも馴染みの場所へお連れするなどの支援をしていきたい。	
			(外部評価)	
			知人等の来訪時には、職員はお茶等を用意して、居室でゆっくり過ごしていただけるよう気配りされている。学生時代の友人と一緒に外食を楽しまれる方がいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士が関わりを持ち、1人1人が孤立しないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			退去後も状況に応じ必要な支援・相談ができる関係作りに努めている。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			ゆっくりと話しをする時間が取れておらず、一人一人の思いや希望は引き出せていない。時間を意識して作り、利用者様の会話や表情の中でその思いが引き出せるよう努めたい。	
			(外部評価)	管理者は、利用者の重度化を見据えて、さらにご家族との関係を深められるよう取り組み、利用者のこれからの暮らしについて一緒に考えながら支援していきたいと話しておられた。今後はさらに、利用者の希望等も踏まえて、ご家族とともに支援をすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			ご本人との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方など把握し、ご本人に合った暮らしが出来るように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			スタッフ同士の申し送りを行えており、大事な事はメモなどに書いて目に付くところへ貼るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>月末にケアカンファレンスを行い、職員みんなで意見を出し合っている。また、家族様にも意見を頂き、それぞれの意見を反映してできるよう介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>毎月、職員で介護計画の中から一番重要と思われる項目を選び力を入れて取り組むようにされている。介護計画は、3ヶ月ごと、又、利用者が退院した時等、状態変化時に見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>24時間シートやケアチェック表など記録物を用い、情報を共有した上で介護計画の見直しも行なっているが、全ての利用者様に対し全て実践する事は難しい。細かい伝達事項などは申し送りノートを用いている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>利用者様の意見を大事に、グループホーム内だけの生活にとらわれず、ご友人・ご家族と外出したり、コンサートや温泉施設の利用など柔軟なサービスが提供できるよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>町内の方々の協力を得ながら、地域行事への参加や買い物など地域の中で安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるように 支援している	(自己評価)	入居前から通っていた病院に定期的に通院されている方も おられる。又定期的な往診もあり、その都度その方の状態を お伝えし、適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	週に1回NS訪問があり小さいことでも伝えられる事は良いが、 通院の日と同じ日であるので、違う日が好ましく思う。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めている。 または、そうした場合に備えて病院関係者 との関係づくりを行っている	(自己評価)	ご家族と相談を行い入院中も出来る限りの支援を行ってい る。又、往診や通院などで病院関係者との関係作りは行えて おり、早期退院できるよう相談に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、 事業所でできることを十分に説明しながら方針 を共有し、地域の関係者と共にチームで支援 に取り組んでいる	(自己評価)	早い段階から重度化した場合の指針を説明し、ご家族の希 望に沿った支援に取り組んでいる。職員の不安はあるが、最 後まで安心して生活して頂けるよう支援したい。	
			(外部評価)		

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			定期的に勉強会を行っており、職員の知識向上に努めている。又、緊急時の対策マニュアルを作成し活用しているが、緊急時はあせりもあり、スムーズに対応できないときもある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に2回消防の方の指導の下、避難訓練を実施している。又、災害時対策マニュアルを作成しており、空いた時間に見られるように他のマニュアルと同様にファイルに挟んでいる。	
			(外部評価)	
			3月には、消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。消防士の方からは、「近隣の方と助け合える関係を作ってはどうか」とアドバイスをいただいた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者一人一人に対して、その時に応じた声かけをしている。否定するのではなく、まず受け入れご本人の要望を聞けるよう努めている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、職員は、利用者の側に座り、ゆっくりとしたペースで笑顔で話しかけている様子が見られた。排泄の声掛けの時は、耳元で小さな声でお誘いする等して配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者様と会話をしている中で思いや要望を聞きだせるよう努めている。思いを伝えられない方も多く、少しでも声や笑顔が引き出せるような支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の話を聞き、その方に合ったペースで対応するよう努めている。介助が必要な方は、見守りやさりげなく支援できるように心がけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族様と一緒に美容室へ行って毛染めされる方もいらっしゃる。散髪の方が概ね2ヶ月に1度来られている。洋服はご本人の希望やご家族様の希望を優先して季節に合った洋服を着ていただけるよう努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と食事の準備や片づけが出来るよう心がけている。それぞれに応じた形態で食事中も会話をしながら、楽しく食事の時間が過ごせるよう心がけている。できるだけ、要望のあったものをメニューに取り入れるように心がけているが、対応できていない事も多い。	
			(外部評価) 利用者のリハビリの日等には、調理専門の職員が2ユニット分の食事を作るようになってきている。男性職員が食事を作る時には、利用者が手伝ってくれるような場面もあるようだ。調査訪問時の昼食の折りには、食べにくそうな利用者に職員は、「スプーンにしましょうか」と耳元で聞いておられた。蕎麦を食べに行かれた際には、利用者はとても喜ばれたようだ。ピザを宅配されたこともあり、飲み物に浸しながら食べた方もいるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) なるべくお出しした物を全て食べていただけるよう、それぞれに応じた食事の形状にしている。食事量や水分量が足りない時にはパンやバナナで捕食したり、寒天で代替したり栄養摂取や水分確保に努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行うよう努めている。それぞれの状態に応じ、スポンジブラシ等も使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 食事前後やそれぞれの排泄パターンに併せてトイレ誘導するように努めている。トイレでの排泄が困難な方は離床時、臥床時に確認し、交換するよう努めている。	
			(外部評価) ご自分の力で排尿し難い方には、母体医療機関の看護師の指導のもと、職員がお腹を押さえながら排尿を促し支援されている。トイレ内に鈴を付けて、利用者が必要時に鳴らし、職員を呼べるようにされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) イーージーファイバー・乳製品・水分・寒天などを利用し、できる限り自然排便を促すよう努めており、毎日習慣づけることが必要である。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日を決めてしまっている利用者もいるが、できる限りご本人の希望に沿った入浴ができるよう支援している。入浴中も会話したり、入浴剤を使用したり、入浴する事が楽しく思っただけよう支援している	
			(外部評価) 入浴にお誘いしても、利用者のほとんどの方が、「めんどくさい」と嫌がる事が多く、職員は、「今、ちょうどいい湯加減ですよ」等、と声かけを工夫して入浴につなげておられる。管理者は、拘縮のある利用者も浴槽で温まれるように考えていきたいと話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に外出や散歩をして夜に気持ちよく眠れるように支援している。又、利用者の状態に応じて居室や畳コーナーで横になって休んでいただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書のファイルを作成しており、常に見れるような場所に保管している。又、薬の増減など申し送りノートなどを活用し把握に努めている。全ての薬の目的、副作用、用法、用量については把握できていないと感じる。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りのお手伝いや後片付けなど、家事にも参加していただいている。気分転換に玄関先に行き、色々な話が出来る事で喜んでいただいているように思う。個別にドライブや外出の機会を増やせるよう支援したい。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 普段買い物へ行く際には声かけをし、一緒にいけている。地域のイベントや季節の行事に出来るだけ参加できるように努めている。 (外部評価) 利用者の重度化等もあり、少人数でコスモス畑へ出かける等、外出できるよう取り組まれている。又、週2回のリハビリの帰り道に、時には買い物等を楽しめるよう支援されている。調査訪問時には、ほぼ全員の利用者が、事業所の畑にも掘りに出かけて行かれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の人ではあるが、個人でご友人と外出する際にお金をお渡しいたり、盆踊りやバザーなどのイベントに出かけた際に希望があれば、使えるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたい時にかけるようにご家族とも相談して支援している。また年賀状を出しておられる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関は利用者の家族様が定期的に飾り付けをして下さっている。リビングや台所の掃除、整理整頓が出来ていない事が多く、環境整備に努めたい。	
			(外部評価) 居間は、木のぬくもりを感じられるような空間で、地域の方からいただいたピアノを置いておられ、5月のバザー時の写真を掲示しておられた。玄関先等に乱雑さも目立つが、玄関まわりは事業所の印象でもあり、利用者やご家族等と協力し合って整頓等されてはどうか。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置き、一人になれるようにしたり、玄関のベンチで庭をみながら外を見て気分転換できるように居場所の工夫をしている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人が使っておられた家具などがあれば持参して頂き、使用している。ご本人やご家族の希望により、花を飾ることもよくあり、居心地よく過ごせるよう工夫しているが、整理整頓が出来ていない事があり、職員が気をつけていく必要がある。	
			(外部評価) 居室にご自宅から持ち込まれた家具や仏壇、ご家族の写真を置いている方も見られた。段ボールに物を入れたままの方も見られる。今後さらに、利用者やご家族とも話し合いながら、利用者の居心地のよい居室環境作りに向けた取り組みをすすめていかれてほしい。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの表示をし、利用者本人が確認できるようにしている。家事に参加してもらい、自立した生活が送れるように援助している。	
			(外部評価)	